小松市ホームページ「小松市の文化財」

高家住宅主屋・土蔵

種　　別	国登録有形文化財　建造物
登録年月日	令和４年 10 月 31 日
所　在　地	小松市日用町

高家住宅主屋は、かつて林業を営んでいた旧家の主屋である。日用町は古くから杉の産地として知られ、現在は日本有数の苔の名所「苔の里」が広がる。

正面は南向きで、木造２階建、切妻造り、妻入り、桟瓦葺である。間取りは広大な広間を手前に、奥に座敷や仏間を配する典型的な加賀地方の農家住宅の様相を留めている。土間や広間廻りの柱や梁には日用杉を多用しており、各室の軸部や建具は漆塗りで仕上げとする、大型の豪壮な民家である。伝承と材の経年感から明治中期の建築と考えられる。

高家住宅土蔵は、主屋の西に位置する土蔵である。通路を挟んで漬物蔵とする東棟と米倉とする西棟が並列し、それを一つの屋根が覆っている。木造２階建、長大な屋根を桟瓦葺する土蔵で建物外壁を荒壁仕上げとする。南面には下屋を一連で付し大きな蔵前としている。土蔵内部は各階とも板敷である。北陸地方で多い二棟並列の土蔵が建てられる場合、下屋庇を１つの屋根で覆い、土蔵は各々の屋根で構成される形式であるが、土蔵の屋根自体も１つの屋根で覆った高家住宅土蔵は珍しい形式である。

高家住宅主屋および土蔵は、日用杉の産地として林業を生業とした日用地域の歴史を今に伝えるとともに、旧家の屋敷構えを形成し、「国土の歴史的景観に寄与している」貴重な建物である。

高家住宅主屋

高家住宅土蔵